西光寺だより

第一五四号　令和五年　六月一日発行

■今月のカレンダー■

信は　如来の生命なり

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の流行で世界中が恐怖を味わっています。その中で、私はワクチン情報に戸惑い、困惑した経験があります。

テレビでの報道番組では、多くのお医者さんが「早くワクチンを接種すべきだ。そうすれば集団免疫ができ、新型コロナウイルスの影響も収束する」とおっしゃいます。

一方で少数ではありましたが、「副反応がいつ出るかわからない」「接種すべきではない」という意見もありました。ある友人は、長い論文まで添付して、打つべきではないと忠告してくれました。

ずいぶん迷いましたが、普段お世話になっていて信頼できる主治医にアドバイスを求めて、納得し、４回の接種を受けました。つい情報量が多い方、信頼している主治医のアドバイスを選んだのですが、それが良かったのかどうか、いまでも半信半疑です。

ここに、「信」や「疑」という私の心があります。

この「信」や「疑」は、私の心に生ずることですが、テレビというメディアの信用性や、そこに出てくるお医者さんの熱心さ、あるいは情報量の多寡などが大きな要因となって、信や疑が決定します。最終的には、主治医さんとの日頃の付き合いから出てくる「信頼」というものがワクチン接種を決定しました。

親鸞聖人は、比叡山でご自身の修行の功徳で仏となることを志されましたが、それに破れ、法然さまと出遇われました。法然さまの「本願を信じ念仏申さば仏に成る」とのご教示をうけ、必死の思いでお聴聞を重ねられ、ついには「雑行を棄てて本願に帰」されたのです。

「たとえ法然さまにだまされて念仏したために地獄へおちたとしても、決して後悔はいたしません。」

法然さまに対する日頃の信頼がそう言わしめたのでしょう。

そして、『歎異抄』では「阿弥陀仏の本願が真実であるなら、それを説き示してくださったお釈迦さまのお説法がいつわりであるはずがありません。」続いて、そのお説法を善導大師が解釈してくださり、それを受けて、念仏往生の道を明らかにされた法然さまのお言葉は決して偽りではないこと、ここを聞いてうなずいたのが、私の「信心」である、とおっしゃいました。

つまり親鸞聖人の「信心」は、阿弥陀さまから連綿と続くお念仏の歴史の中で、お釈迦さまをはじめ、善導大師、法然さまを含む七高僧の、なんとかお念仏の道を信じてほしいという、いのちがけの伝道のたまものであります。

阿弥陀さまの「一人も漏らすことなく、浄土へ迎え取り必ず仏にする、そのことを信じて生きておくれ」という喚び声をしっかりと聞きお互いの心にいただきながら生きてまいりましょう。

（法語カレンダー　解説書より）

◆先月の報告◆

①五月十八日（木）西光寺本堂にて茨木東組仏教婦人会連盟総会を行いました。茨木東組仏教婦人会の代表のお役が西光寺にまわってきて３年間、その最後を締めくくる総会を行うことができました。

ご講師に、永代経に引き続きましてのご縁をいただきました、上穂積の善照寺ご住職の岡先生をお迎えし、各お寺での仏教婦人会の運営の難しさなど対面形式で質問にお答えしていただき、なごやかに、そして有意義なひと時でありました。

この３年間、会長はじめ役員の皆様ありがとうございました。

---

②五月二四日（水）西光寺にてふらっとカフェ追大（ふらっと立ち寄れる地域のカフェ）が実施されました。ふらっとカフェは追手門学院大学の生徒さんたちが企画・運営しています。開催場所は毎月変わりますが、地域の居場所のひとつとなっています。

このように西光寺も様々な方と関わりながら良いご縁がつながり、広がっていく場でありたいと思います。

今後もイベントや子供の学びの場として地域に根差したお寺づくりをしていきたいと思っております。

合　掌